

2013年 9月議会 一般質問

- 1) 中山間地域の洪水対策について
- 2) あがた公園の防災備蓄倉庫設置計画は洪水を考慮したものとなっているのか
- 3) 町立小中学校の少人数学級化へのビジョンは
- 4) 町道庄能瀬線の総事業費等の訂正を
- 5) 「ミニポートピア津幡」周辺の交通対策を

答弁については11月半ばごろに津幡町ホームページにて会議録を見ることができます。

#### 1) 中山間地域の洪水対策について

この夏は、全国各地で観測史上最高の降雨量が記録され、猛烈な雨による住宅の浸水や土砂崩れが相次ぎ、多数の死者も出て、大きな被害もたらされました。

津幡町でも8月23日、河合谷、興津、種～下矢田が水田冠水の被害を受け、下矢田、中山地区周辺では道路が冠水し、町営バスが立ち往生し、そして集落は一時的に孤立状態になり、町消防本部隊がゴムボートで8人の住民を救出、住民が集会所に避難するという事態になりました。この日は石川県内各地が豪雨に見舞われ、かほく市では、24日朝までの24時間雨量が223.5ミリに達し、宝達志水町でも212ミリといずれも観測史上最大となりました。そして菩提寺では、241ミリもの雨が降りました。

この日の津幡町は朝から激しい雨が降っていました。午後2時半ごろ、たまたま役場庁舎内の総務課の前で出会った町長ご本人から、町営バスが立ち往生している、県道が通行止めになっていると聞き、現場近くまで行ってみました。大雨はやんでいましたが、下矢田地区の水田を見ると、畔が決壊し稲穂を押し倒して大量の水が能瀬川に勢いよく流れ込んでいるのが見えました。

翌朝、中山地区の住民に当時の状況を尋ねると、能瀬川に注ぐ用水の排水口を上回る水量が用水路からあふれ、ついで川の水位が上昇し排水口から逆流した水とあふれた川からの水で道路が冠水し、床下浸水したという内容のお話でした。これは短時間で大量の雨が降ったことで、河川だけでなく、用

水の処理能力も超えてしまったことが大きな要因ではないかと考えます。今回の水害の原因について聞きます。

中上流域での河川の外水氾濫のみならず、用水路の処理能力を超えた内水氾濫による洪水予測が今後は必要だと思えます。町は内水氾濫を想定しているのでしょうか。

そしてこの豪雨災害による被害の実態、被害額、当日の町の対応について聞きます。さきほどのお話では、被害額は4億円ということでしたが、農作物の被害額も入っているのですか。

初動体制は的確だったのか。検証していただきたい。どのような経緯で消防本部が出動し救助に至ったのか。正確な情報を迅速に伝達し、避難指示ができたのか。

津幡町大雨洪水警報は、金沢地方気象台から23日朝10時31分に出されていて、わたしの携帯には10時35分に配信メールで着信しています。金沢気象台からの情報がその4分後に役場を経由して個々人の携帯にキャッチされています。この配信サービスの利用者をもっと増やすよう積極的に取り組むべきではないか。

また、静岡県小山町では水害を体験した人たちのその当時の状況を具体的に聞く「古老聞き取りノート」という取り組みを行っているそうです。被害を受けた現場の方々から当時の様子をしっかりと聞きとり、今後の対策にいかしてほしいと思えます。中山間地域の洪水対策について聞きます。

今回、短時間の豪雨で災害が発生したことを踏まえ、初動体制についてはさらに検証して備えていただきたいと思えます。

短時間での大量の降雨量、豪雨への対策の重要性が今回の水害から浮かび上がってくるのではないか。

8月23日の1時間ごとの降水量を見ると、これは気象台から出されたかほく市のデータですが、正午から午後1時にかけて59.5ミリ達しており、1時間の降雨量としてはこの日の最大値となっています。その前後にあたる1時間の降雨量は正午前がわずか5ミリ、午後1時過ぎの1時間でも約9ミリです。朝8時ごろと11時ごろにそれぞれ1時間雨量が約34ミリ、約40ミリと降っています。その結果かほく市は農地被害額を除いても1億5100万円の被害を受けました。農作物を合わせれば大変な金額になるでしょう。菩提寺では1時間に67ミリの降雨量と聞いています。

津幡町では、今後は市街地においても、排水機能をチェックするなどして、内水氾濫の危険性を調査すべきと思えます。

## 2) あがた公園の防災備蓄倉庫設置計画は洪水を考慮したものとなっているのか

次に、あがた公園の防災備蓄倉庫設置計画について質問します。  
さきほど触れましたように、ゲリラ豪雨、集中豪雨、局所的豪雨と、降雨量の記録は、全国各地で連日、観測史上初という状況が続きました。そして8月23日の豪雨による災害は、津幡町では自然災害といえはまず水害なのだということを改めて実感させられる出来事でもありました。

町の洪水ハザードマップには、河北潟が100年に1度、あるいは宇ノ気川、津幡川、森下川が50年に1度の洪水になった場合、河北潟周辺のどのあたりがどれくらい浸水するかということが想定されています。

あがた公園に防災備蓄倉庫をつくる計画が進んでいます。しかし、この洪水ハザードマップによると、あがた公園の防災備蓄倉庫の設置場所は、1mまでの浸水が予測されています。周辺の水田の海拔は2メートルで、ここは1~2メートルの浸水が予測されています。もし仮にあがた公園が冠水した場合、周辺の道路も冠水し、住宅も浸水して大変な被害が想定されます。そのような水害時に防災備蓄倉庫から物資を迅速に運ぶことができるのだろうか。あるいは倉庫内の物資そのものが浸水により被害を受けるのではないかという懸念を持たざるを得ません。またここは地震の場合、家屋が崩壊し液状化の恐れが高い場所でもあります。以前より一般質問や委員会でも意見してきましたが、計画中の防災備蓄倉庫はもっと安定した高台で、水害の被害を受けにくいと考えられる場所につくるべきではないですか。最近の気象状況を鑑みても、50年に1度という豪雨は明日降ってもおかしくないようにも思われ、本当にあがた公園周辺が浸水した時のことを考えれば、ここに防災備蓄倉庫は不適切ではないか。

また防災物資は分散して備蓄することも大切ではないかと思えます。

この洪水ハザードマップには能瀬川の氾濫については考慮されていませんが、その理由は何か。能瀬川の氾濫を町は想定していないのでしょうか。

防災備蓄倉庫とは直接関係ありませんが、市街地では集中豪雨、ゲリラ豪雨により内水氾濫による浸水が懸念されるのではないかと考えます。通常なら内水は下水道の雨水管やポンプ施設によって河川へと排水されますが、施設の能力が雨量においつかなかったり、外水の水位の上昇により排水できなかつたりすると、建物や道路が冠水してしまいます。市街地においても排水

機能をチェックするなどして、内水氾濫の危険性を調査すべきと思います。対策が必要ではないか。

ハザードマップによると、あがた公園周辺は、地震の際も洪水の際も、町内ではもっとも危険な区域のひとつとなっていることが町長には理解できないのでしょうか。

以前、一般質問で、あがた公園の防災公園としての機能を問うたとき、町長は「火災の発生が想定された場合、あがた公園は延焼から身を守るための一時避難所として利用できる、大穰や土砂災害時に公園を避難場所として設置するつもりはない」と答弁されています。洪水の際にはあがた公園は防災公園としては機能しないということを確認しつつ、一方では浸水、液状化が予想されるこの場所にわざわざ防災備蓄倉庫を設置するということについては理解できません。

そもそも洪水を想定しない防災備蓄倉庫というのは、津幡町にあっていいのですか。

もともとあがた公園は水田であり、田んぼは粘土質で保水力を高めるために水を保つようになっています。浸水被害はさらに深刻なものになるのではないかと。浸水して被害を受けた場所からどうやって防災物資を運ぶつもりなのか。

本当にここに設置するのが妥当というのであれば、その理由はなんですか。その理由を知りたい。

新たに防災備蓄倉庫を建設するのでたくさんの物資を備蓄することになると想像しますが、何をどのくらい備蓄する予定なのですか。

(現在備蓄はアルファ米5750食、乾パン3600食か?)

あがた公園は防災公園と謳われています。だから、ここに防災備蓄倉庫がないとカッコがつかないのか。それとも国からの補助金を得るために、防災公園としての体裁が必要なのか。備蓄倉庫がないと補助金が出ないとか、そういうことがあるのか。

### 3) 町立小中学校の少人数学級化へのビジョンは

石川県教育委員会の説明によると、小学1年生は35人以下学級、小学2～中学3までは40人以下学級が国の基準ですが、石川県では加配教員を利用して小学2～4年生までと中学1年生は35人以下学級を推奨しており、県内の公立小学校1～4年生は35人以下学級を、中学1年生も35人以下学

級を実現しています。津幡町も小学 1~4 年生までと中学 1 年生は 35 人以下学級です。しかし、5 年生 6 年生は 40 人以下学級となるため、進級に際して、生徒数によっては学年のクラスが減って 1 クラスの人数が倍近くに増えるということがあります。

たとえば、今年は、太白台小学校については、去年 4 年生は 1 クラス 26~27 人の計 3 クラスだったのが、1 学年 80 人のため 5 年生になって 1 クラス 40 人の計 2 クラスになりました。また英田小学校でも昨年 4 年生のときには 1 クラス 20 人の計 2 クラスで勉強していたのが 5 年生になって 40 人の 1 クラスになりました。条南小学校の 5 年生も 4 年生までは 24~25 人計 3 クラスだったのが 5 年生になって 37 人計 2 クラスになっています。

太白台小学校は 1 クラス 26~27 名の学級から 40 人となり、英田小学校は 1 クラス 20 人から 40 人に倍増しました。太白台小学校の 5 年生を持つある保護者の方は、4 月に授業参観に行ったら 40 人が教室いっぱいに座っていて、窮屈そうだった。当初子どもはストレスを抱えていたというお話でした。程度の差はあれ、5 年生の 1 クラスの学級人数は増えることになりませんが、生徒や保護者、教員からどのような意見、反応がありますか。また教育長としてどのような見解を持ち対応していますか。

県内では、独自に自治体が負担して、白山市は小学校 1 年生の 30 人以下学級を。内灘町は小学校 1 年生と 2 年生の 30 人以下学級を。かほく市は小学校 5 年生の 35 人以下学級を実現しています。

近隣自治体の少人数学級化への取り組みを、どのように考えていますか。予算がいることでもあり、慎重に考えるべき問題ですが、体格も大きくなった上級生へと進級したら、20 数人がいきなり 40 人に増えることは保護者が感じたように窮屈であり、児童や教員にとって弊害も考えられ、問題があるのではないか。これらの現状を踏まえた、教育長の少人数学級化へのビジョンについて答弁を求めます。

現在、条南小学校の 2 年生と 3 年生は、1 クラス 26~27 人の計 3 クラスですが、5 年生になったら 1 クラス 39~40 人の計 2 クラスになる予定です。津幡小学校の 2 年生も現在の 1 クラス 26 人で計 3 クラスですが 5 年生には 1 クラス 39 人の計 2 クラスへと、今年の太白台小学校や英田小学校と同じように 1 クラスの人数が 39 人、40 人となり一気に増えることになります。自治体の負担が不可欠ですが、教員を増員できないか。たとえば来年度は英田小学校に 1 人教員を追加し、太白台小学校にも 1 人を追加し、合計 2 人を増員する。再来年度は条南小学校の 5 年生が 1 クラスの

人数が40人になるので、1人を増員する。さらにその翌年、つまり3年後には条南小学校5、6年生は1クラス40人の計2クラスとなり、津幡小学校も5年生が39人となるために3人の先生を増員して1クラス26~27人とする。このようにすると来年は2名、再来年は1名、3年後には3名の教員の給与等を自治体が負担することになりますが、教育長としてはどう考えますか。

#### 4) 町道庄能瀬線の総事業費等の訂正を

町道庄能瀬線は国道8号津幡北バイパスの緑が丘交差点から森林公園側の森林を切り開き、現在建設中の河北縦断道路を谷内地内で交差して能瀬の英田郵便局横へ接続する全長2.4キロメートルの道路です。

当初は14年間で総事業費15億円をかけて完成される予定でした。しかし14年目を迎えた現在、庄能瀬線は全長2.4キロのうちの約1キロ、全体の42%しか完成していません。

そこでわたしは今年の6月議会の町政一般質問において、町道庄能瀬線道路工事に関する平成12年の事業開始から今年25年までの14年間の事業費と財源の内訳について質問しました。その時議場で、わたしは、事業費が15億円を超えていると発言しました。15億円を超えていると言った根拠は、今年4月に全議員に配布された(3月付けで事業費等の見直しがされた資料である)この「実施計画書」にありました。

この「実施計画書」は津幡町第4次総合計画に位置づけられた各施策や事業に関して、平成18年~27年までの10年間の事業費等が年度ごとに記載され、総事業費についても掲載されています。「実施計画書」に基づいて計算すると15億円を超える事業費となります。ところが、町長の答弁では庄能瀬線の14年間の事業費は12億4000万円ということでした。議会後すぐにわたしは担当課に行き、なぜこんなに金額が違うのかと質問しました。その回答はすぐにはいただけず、わたしはその後何度も疑問が生じたので担当課とはやり取りを繰り返してきました。そして2ヶ月以上たって9月本会議直前になってようやくその原因等がわかったということです。事業費12億4000万円については間違いはないということ、そして「実施計画書」に誤りがあったということでした。ここでその経緯について説明していただき、訂正を求めます。

(答弁では、平成12年~15年までの14年間で、総事業費15億円をかけて完成される予定だったのが、それがこの「実施計画書」によって、平成12年~35年までの24年間で、総事業費は16億2550万円に見直されたに

もかわらず、「実施計画書」には平成12年～27年となっていた。27年は間違い、35年だった、35年に訂正する・・・ということでした。）

再質問はしませんが・・・

つまり、当初は平成12年～15年までの14年間で、総事業費15億円をかけて完成される予定だったのが、それがこの「実施計画書」によって、平成12年～35年までの24年間で、総事業費は16億2550万円に見直されたということですね。27年ではなく35年だったということですね。しっかり調査しての、各担当職員のみなさんには感謝します。一方言いにくいことも率直に言わなければなりません。

そもそも、この「実施計画書」は今年3月に見直され、変更されたばかりのものです。それがその3ヶ月後の、6月議会で、町長は庄能瀬線の完成までの総事業費は22億円になると答弁されました。今年3月に見直されたばかりの16億2550万円の総事業費が、3か月で22億円になるということでは、この「実施計画書」は、単に記載された数字や文言の誤りだけではすまないのではないかと考えています。

また、まだ42%しか完成していない道路に12億4000万円がかかってしまったのですから、総事業費はその倍以上はかかることが予想され、22億円で完成されないのではないかと。わたしはこれ以上の庄能瀬線の道路建設は必要ないと思っています。どうか、町道庄能瀬線については、今後慎重に検討を重ねてください。

## 5)「ミニポートピア津幡」周辺の交通対策を

「ミニポートピア津幡」を出て金沢・能登方面に帰りたいという車が、センターライン上のポールを過ぎてすぐ、みどりが丘交差点信号の手前でUターンするのを6月、7月、8月と目撃しています。町民からもそのような車を目撃したという話も聞いています。交通ルールを守らない車が少なからずあり、大変危険だということを町は把握しきちんと対策を講じるべきです。また、金沢・能登方面へ向かおうとする車がポートピアを出てからみどりが丘の交差点で左折してすぐにUターンするために、みどりが丘交差点手前で車が数珠繋ぎとなることがあり、そのために富山方面に向かう車は動けず、渋滞することもあります。ロータリーが必要なのか、あるいはすぐにUターンできないようにすることなのか、みどり市、(株)グッドワン、警察署、国土交通省等に現状を示し、事故の起こる前にきちんとした対策をとってください。